

吉田 稔 筆

平成22年4月 No. 93

● 編集・発行  
柏市増尾地域ふるさと協議会  
(土地区社会福祉協議会)

〒277-0033  
柏市増尾三丁目1番1号  
増尾近隣センター内  
☎ 04-7174-7211

みんな元気 住んで良かった この地域

## 地域活動に参加しやすく 地区懇談会を開催

平成21年度の地区懇談会は増尾地域を3ブロックに分けて、平成21年8月30日、12月13日、平成22年2月14日に実施しました。

「だれもが・その人らしく・住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち柏」の理想を実現するには、「助け合い」や「支えあい」を行う近隣同士の理解と協力が必要です。

そこで、今回は『どうしたら多くの方が地域活動に楽しく参加できるか』を考えました。

討議方法も、これまでのように全員が「口」の字に座り、意見を出し合う方法ではなく、参加者をグループに分け、テーマを設定して話し合うグループワーク方式を採りました。

話し合われた内容は、①自分の街（地区、町会・自治会）のよいところ、②自分の街の悪いところ、困ってい

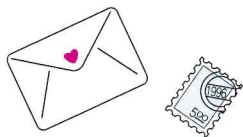


ハイ、時間です！ 熱中していて、ついタイムオーバー

ること、③地域活動に参加しにくい理由、④どういうテーマ（活動）なら参加しやすいか、の四つでした。

そこでは、「住民の参加意識の薄さ」「活動内容のアピール度・PR不足」「リーダーがいない」「興味あるイベントが無い」など多くの意見が出されました。今後、ここに出された声を整理して、皆さんにご報告するとともに、課題の解決に向けていっしょに考え、住みよい地域づくりを進めていきたいと思ひます。

地区社協部 大江 幹



## 私の町会・自治会だより

皆さんの町会・自治会を紹介していくコーナーです。

### 増尾日立自治会

私たちの自治会の名前の由来は、40数年前、山であったこの地が開発されて“日立グループ企業”の社員に分譲され、日立の社員が集まる地域となったことによります。

その立地条件は、かつて山であったことから小高いため出水の心配も無く、日当たりも良く、また逆井駅、増尾駅のいずれからも徒歩約10分に位置し、静かで住みよい所です。

会員数は60世帯と小規模ですが、ご多分に漏れず高齢化、少子化が進んでおり、将来独居高齢者が増えていくことは避けられない状況にあります。

こうしたことから将来に対する危機意識が芽生え、“寄らば大樹の陰より向こう三軒両隣の助け合い”

が基本であるという意識が高まり、1年半ほど前に長くお世話になった増尾町会から自立しました。

今後、取り組まなければならない大きな課題は、何かあったときに、みんなで助け合える人間関係や組織体制を作ることです。しかし少ない世帯とはいえ、いろいろな考えの人がおり、またプライバシーの問題もあって、心をひとつにして助け合いの和を作ることはいへん困難なことです。

ふるさと協議会や近隣町会・自治会との交流を深めるなかで情報・知恵を得ながら、急がず出来ることから課題解決に取り組んでいこうと役員一同考えています。

会長 安藤 英夫





## あなたはどんなエコ活動を? 環境フェア2009パネル展開催

地球温暖化、ゴミ減量、消費生活の三つをテーマにして環境フェア2009パネル展を平成21年12月5日から12日まで、増尾近隣センターロビーで開きました。

新たに加えた地球温暖化に関するパネルの前では足を止める人が多く、小学生から突然「温室効果ガスってなあに?」と質問されて戸惑う場面もありました。

期間中に実施したアンケート『家庭で行っているエコ活動について』には134名の方々から回答をいただきました。

回答の多かった上位の五つは、「買い物にマイバッグを持参」52%、「電灯をこまめに消す」22%、「生ゴミの堆肥化」8%、「車から自転車、徒歩へ」4%、「待機電力の削減」4%でした。

このほか13種類もの回答が寄せられ、皆さんの関心の高さや多岐にわたる創意工夫に感心しました。私たち個々のエコ活動は微々たるものに思えても、トータルでは、温室効果ガスの削減に大きく寄与することが出来ます。あなたもちょっとお試しになってはいかがでしょうか。

なお、昨年に引きつづいての「ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもにワクチンを!」のコーナーには14000個余りのキャップが皆さんから寄せられました。



クイズのヒントはこの中に?

環境部 中山 紀之

## 年末の防犯パトロール 参加者は前年比22名増

柏市防犯交通安全組合増尾支部と増尾地域ふるさと協議会の共催による年末恒例の夜間防犯パトロールが、平成21年12月27日に行われました。

午後6時前、増尾駅前交番の付近には、防犯腕章やたすきを着用し、懐中電灯などの防犯グッズを手にした人々が続々と集合しました。14町会・自治会、76名の参加者です。

この数字は前年に比べて、参加町会・自治会で4町会増、参加人数では22名の増でした。なお、参加者数は微

増とはいえ、ここ数年増加の傾向です。

また、参加者の年齢構成を見ると20~39歳が1名、40~59歳が10名、60歳以上が50名、不明15となり、50歳以下の参加者が少ないのがちょっと気になります。

午後6時、増尾駅前交番の警察官から、地域内の防犯状況など連絡事項を聞き、松野台地区、加賀地区、新柏地区、増尾地区に分かれ、それぞれ歳末のまちへと、寒空の下パトロールに出発しました。

防犯防災部 斎藤 忠蔵

## 働く意欲を作り出す施設 福祉視察研修会に参加して

玄関に入ると、壁には社会人になるためのマナーのポスターがはってあり、その教えどおりの姿勢と大きな声の挨拶に迎えられました。

平成22年2月23日、地区社協部による福祉視察研修会に参加しました。訪問先は、八街市にある「働きたいという意思がある障害者への支援」を掲げる障害者支援施設、その名も『就職するなら明朗塾』です。

働くことで自分の人生を作りたいと希望する障害者の支援のため、職員はさまざまな資格を取り、入所者へのサービス向上を目指しています。

その一つの例が調理師の免許取得です。職員が免許を取得するとともに始めた宅配弁当の事業は、入所者のために働く機会を作り出したばかりでなく、弁当の評判もよく、いまでは地域でも大きな評価を得ています。その仕事場には、働く人たちの元気で生き生きとした姿が見られました。

また、職員たちは塾の出身者が勤める企業に足しげく通い、コミュニケーションを密にしています。その結果、離職者が減るばかりか、採用の拡大という成果も得られているようです。

障害者を支えている職員のフロンティアとしての心構えと、企業そして地域の連携が手に取るように分かる施設でした。

増尾町会 嶋田由紀江



作業内容を説明する職員も明るく元気



# 「？」が「!!!」に 芸能発表大会



元タカラジェンヌ、さすの貫録



おばあちゃんすごいね、すごいよ

満開の梅の花も凍りつきそうな冷たい雨天になりましたが、増尾近隣センター体育室は開演前から活気にあふれています。オレンジの垂れ幕やピンク、黄、青の飾りの花、華やかなステージ衣装、応援団も準備OKです。

プログラムを開くとカラオケの玄人好みの選曲に「？」「ムーラン拳??」、 「体育室でレビュー???'と頭の中は「？」でいっぱい。ところが「かつぼれ」で賑やかに会が始まりプログラムが進行すると、その「？」が次第に「!!!」に変わりました。予想以上のパフォーマンスはプロ級どころか本物のプロも。51組、3歳から80代まで総勢209名、それぞれ持ち味を発揮。

ある出演者の「出させていただくことが楽しくて」や「踊るよろこび」という柏紅塾の口上の一節、二人の司会者から出た「毎年同じ顔を見ると安心」、この三つの言葉が特に印象的でした。古き佳き空気に包まれて「変わらない」「変えない」ことに一瞬心捉われた芸能大会でした。

地区社協部 吉尾 薫子



スタッフの皆さん



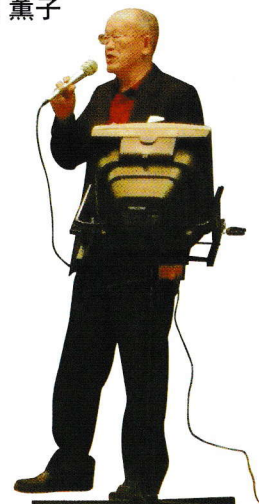
キレ味抜群



二代目登場



天まで届け



初登場「いつもはもっと上手なんですけど」



## アイデアでご馳走を 冷凍食品の上手な活用法

シャキッと仕上がった鮮やかな緑のサヤインゲン、見るからにホクホクなカボチャ。いずれも冷凍食品です。

「冷凍食品を上手に取り入れたい」そんな思いから平成21年12月4日、光ヶ丘近隣センターで、消費生活コーディネーター南部ブロック講演会を開催しました。講師は(社)日本冷凍食品協会の矢治長子先生。全農本所生活部料理コンサルタントとしてご活躍です。

調理実習に60人の参加者は大いに盛り上がり、一口ずつの試食のたびに質問が飛び交います。そして矢治先生の巧みな話術でみな納得。「さっそく試してみよう」の声があちこちに。冷凍食品は取れたての栄養価、取れたての風味が保たれているため、上手に活用すれば、バランスのよい食生活に役立ちます。保存で気をつけなければならないことは、脂やけと乾燥。せっかくの栄養価も風味も損なわれてしまいます。ちょっとしたコツで目でも楽しめる食卓が出来上がります。

きれいな緑色でシャキッとしたサヤインゲンは、流水解凍してさっと熱湯を通すだけ。お菓子作りで余った生クリームは小分けに絞って冷凍し、コーヒーにひとつ浮かべれば、ちょっとおしゃれなコーヒータイムに。冷凍食品を使ったアイデアでご馳走を作りませんか。

消費生活コーディネーター 嶋田由紀江



鮮やかな手際に、参加者から思わずため息が

## 増尾の里山へどうぞ

私たち「増尾の里山を守る会」は中原中と中原小から増尾近隣センター方面に抜ける林道とその周辺を活動の場としています。

林道や水路の清掃、そして地主さんと話し合いながらの荒地の環境整備など、出来ることから一步一步進め、今年の3月で丸5年になりました。



いっしょに自然と親しみませんか

さらに、本年からは柏市道路アダププログラムに参加し、林道の里親になりました。林道は地域の皆さんの大切な散歩道です。気持ちよく行き来できるよう、きれいにしていこうと思っています。

里山畑と広場は花をとおして、地域の皆さんが仲良くなる場、土と親しむ場として活用しています。広場にあるどっしりとしたベンチは地主さんから届けられたものです。どうぞ里山の春をゆっくりとお楽しみください。

毎月第2日曜日の午前9時から林道周辺のゴミ拾いと整備をしています。また、里山畑の作業は自主活動です。耕し作業や草取りなど、各自の都合のよい時に行っています。どちらも手が足りません。どうぞ出来ることをお手伝いください。お問い合わせ、ご連絡は下記へ。

[H P] [www.7b.biglobe.ne.jp/~masuo-satoyama/](http://www.7b.biglobe.ne.jp/~masuo-satoyama/)

[TEL] 04-7175-5493

増尾の里山を守る会 岩城 さと

## 県内初の老人クラブ間交流 九十九里町ダイヤモンドクラブを訪問

「うちと同じ名前の老人クラブ連合会が県内にあるよ」何気なく話すと、多くの会員から、一度訪ねてみたいという声が上がりました。

そこで、さっそく私たち増尾ダイヤモンドクラブの女性部が企画し、平成22年2月16日に九十九里町ダイヤモンドクラブ連合会への訪問となりました。

来賓の千葉県老連会長をはじめ、連合会会長、地区老人クラブの皆さんから温かい出迎えを受けて会場へ。お互いの地域の紹介に始まり、活動状況や問題点など熱いやり取りが済むと、地元の材料で作った自慢の手打ちそばや名物の太巻き寿司でのおもてなし。そして、昼食後はカラオケでもうひと盛り上がり。

関係者によると、市外の老人クラブ間の交流は例を見ないとか、これを機に、県内外の老人クラブとの交流を深められたらと思っています。

増尾ダイヤモンドクラブ 市岡 實